

Ⅰ 研究主題について

研究主題 「グローバル化に対応した子どもの育成」

<主題設定の理由>

☆グローバル化とは…

情報通信技術の進展, 交通手段の発達による移動の容易化, 市場の国際的な開放等により, 人, 物材, 情報の国際的移動が活性化して, 国境の意義があいまいになり, 各国が相互に依存し, 他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象のこと。

→さまざまな分野で国や地域といった隔たりがなくなること

(1) 社会的課題から

社会の急速なグローバル化の進展の中で, 英語力の一層の充実は極めて重要な問題であり, これからは, 国民一人一人にとって, 異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になることが考えられる。現在, 我が国では, 人々が英語をはじめとする外国語を日常的に使用する機会に限られているが, 高度通信情報ネットワーク社会への急速な移行とともに, 世界全体でのつながりが, 数多く求められるようになってきている。児童生徒が卒業後に社会で活躍するであろう 2050 年頃には, 我が国は, 多文化・多言語・多民族の人たちが, 協調と競争する国際的な環境の中にあることが予想され, そうした中で, 国民一人一人が, 様々な社会的・職業的な場面において, 外国語を用いたコミュニケーションを行う機会が格段に増えることが想定される。

小学校の外国語教育に関しても, 平成 29 年 6 月, 文部科学省から新学習指導要領の解説が公表され, 総則編には, これからの時代が, 「生産年齢人口の減少, グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により, 社会構造や雇用環境は大きく, また急速に変化しており, 予測が困難な時代となる」ことが記されている。今後の英語教育改革においてその基礎的・基本的な知識・技能とそれらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することは, 児童生徒の将来的な可能性の広がりのために欠かせない。もちろん, 社会のグローバル化の進展への対応は, 英語さえ習得すればよいということではない。我が国の歴史・文化等の教養とともに, 思考力・判断力・表現力等を備えることにより, 情報や考えなどを積極的に発信し, 相手とのコミュニケーションができなければならないと考える。

(2) 学校教育目標の具現化から

「さくらとにおう よい子ども」

○よく学ぶ子ども

○心かがやく子ども

○正しく強い子ども

○ふるさとを愛する子ども

「さくらとにおう よい子ども」とは本校校歌の歌詞の一節であり、作詞をした本校卒業生で東京大学の国文学者であった小池藤五郎先生の「美しい花のように生き生きとした魅力が内面からあふれ出ている素晴らしい子ども」になろうという思いを推察して設定したものである。また、それを具体化する4つの目標は、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健やかな子どもの育成を目指すものである。

本校では学校教育目標を受けて、国際理解の目標を「広い視野で異文化を理解し、思いやりの心を持って、多様な文化や生活をもった人々とともに生きる子ども」としている。

主体的・対話的で深い学びを通して、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育むことによって、「グローバル化に対応した子どもの育成」を図り、学校教育目標「さくらとにおう よい子ども」に迫ろうと考えた。

(3) 研究の経過から

本校では、令和3年度から英語教育改善プラン推進事業の指定を受け、外国語に関する研究を進めてきた。力を入れた内容としては、思考力、判断力、表現力の活用・育成に向け、『言語活動の工夫・充実』である。特に、「話すこと（やりとり・発表）」について、重点的に研究を進めてきた。具体的には、「対話力の向上」「目的や場面、状況の設定」「効果的な ICT の活用」「アンケートによる児童把握」「掲示の工夫」である。また、「パフォーマンス評価」「振り返りシート」を活用しながら、指導と評価の一体化についても実践を積み上げてきた。実践を通すことで、思考力、判断力、表現力を高めるための授業づくりを行うための指導について研究を深めることができた。

今年度も、昨年度の研究成果や反省をいかしながら、実践を積み重ね、思考力、判断力、表現力の向上につなげていきたい。「グローバル化に対応した子ども」を育成するために、主体的・対話的で深い学びを通して、授業づくりの在り方や、指導計画の作成などを研究していく必要があると考える。

(4) 児童の実態から

昨年度、授業中の指導や、振り返りカードの見取り、児童アンケートからの考察などを通し、様々な実態を把握することができた。それらから見えてきた課題は以下の通りである。

○即興的な会話を継続的に行うことができてきたが、同一表現を多用している様子が見られた。

→これまでに学習した文法を用いる力を高め、幅広くより深みのある会話をめざしていく。そのための指導の工夫が必要。

○言語活動の高まりに連れ、ある程度、思考力や判断力、表現力が高い児童は良いが、力が定着しにくい児童に関しての対応が特に必要と感じた。

→必然性のある活動を意識し、英語への抵抗感をなくしていく。また、十分慣れ親しませる活動を通し、思考力・判断力・表現力を高めていくための工夫が必要。

○より良い会話を見聞きしたり、自分の会話を振り返ったりすることで力はつけてはいるが、スムーズに文が出てこない場面も見られる。

→外国語活動や外国語の授業だけでなく、朝活動なども利用し、会話を楽しみながら、英語表現に親しませる機会を増やしていき、思考力・判断力・表現力を高めていく工夫。

以上、「社会的課題」「学校教育目標の具現化」「研究の経過」「児童の実態」から、思考力・判断力・表現力を生かしながら、他者と外国語を用いて意見を述べることを通し、交流する力の育成を目指すことで、グローバル化の進展に伴う子どもの育成を図る。

2 研究副主題について

研究副主題 ～外国語教育における言語活動の充実を通して～

＜副主題設定の理由＞

研究目標

外国語・外国語活動などを中心とした外国語教育において、言語活動の充実を図る実践に取り組むことを通し、グローバル化に対応した児童の育成を目指していく。

「主体的な学び」の実現に向けて

- ・児童がコミュニケーションを行う目的などをきちんと理解し、「やってみたい」「学んでみたい」という高い意欲を持つこと。
- ・与えられた活動を受け身の姿勢で行うのではなく、どう学んでいくかを自ら構想すること。
- ・学習全体を振り返り、次の学習場面に活用したり、課題意識を明確に持ったりすること。

「対話的な学び」の実現に向けて

- ・対話を通して学べるような言語活動(※)を行うこと。
※言語活動とは…言語材料を理解したり練習したりする「学習活動」ではなく、自分の考えや気持ちを伝え合うなどの、コミュニケーションを行う活動。
- ・英語の音声、語彙、表現など、コミュニケーションを図る資質・能力の知識・技能の側面に気づき、自ら取り入れること。
- ・自分の考えを見直し、自分の伝えようとする内容や方法を変えること。

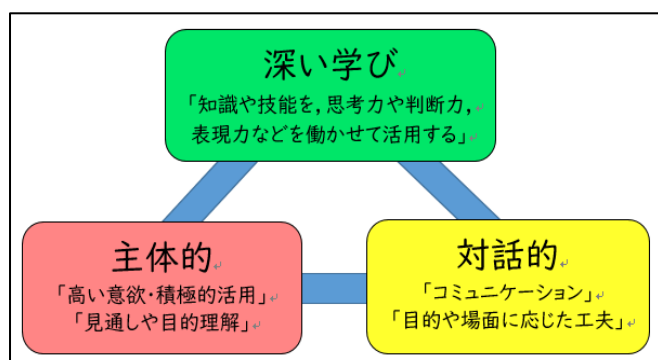
「深い学び」の実現に向けて

- ・児童が、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等をしっかりと理解し、考えながら言語活動を行うこと。
- ・持っている知識や技能をすべて用いて、活用していくこと。

深い学びとは…

「知識・技能」に関わる資質・能力を、思考力や判断力、表現力などを働かせて活用することによって、断片的な知識や技能だけに終わらせない学びをすること。

英語教育改善プラン推進事業



事業目的

小・中・高等学校を通じて、グローバル社会に生きる児童生徒に求められる英語による発信力を向上させるために、実際の目的・場面・状況に応じた英語を活用する課題（パフォーマンス課題）を設定し、指導・評価するモデルを構築する。

・発信力の向上

話すこと（やり取り）→既習事項を使った即興的なやり取りを継続。

・実際の目的・場面・状況に応じて英語を活用→言語活動の設定
学習評価における「思考・判断・表現」の観点と大きく関わる。

・パフォーマンス評価

何ができて、何ができないかを、児童生徒に気づかせ、共有し、次のパフォーマンスで改善することを目指し、自己調整を繰り返し行っていく。

思考力や判断力、表現力の活用・育成に向けて



言語活動の工夫・充実

※言語活動に関して

言語活動とは…『実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動』

「言語活動」に関して「小学校学習指導要領 外国語活動・外国語」の記載

- ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定
- ・簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切に
- ・具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識
- ・児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりする

「言語活動」に関して「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語」の記載

- ・児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような、興味・関心のある題材や活動を扱う
- ・決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを大切にしたい
- ・相手の思いを想像し、伝える内容や言葉、伝え方を考えながら、相手と意味のあるやり取りを行う活動を様々な場面設定の中で行う「伝え合う」ことへの意欲が高まるような場面設定や題材の選択
- ・活動形態についても、ペアやグループ、学級全体に向けた発表
- ・指導者から児童、児童から指導者、また児童同士など、多様な形態で活動
- ・児童にとって身近で具体的な場面設定の中で行い、「誰に」、「何のために」という、「相手意識」や「目的意識」をもって、質問したり答えたりする必然性のある活動
- ・児童が、自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感できるように
- ・児童が本当に伝えたい内容を話したり、友達の話す内容を聞いたりすることができる場面を設定

言語活動の5領域

「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の充実を図る。

発信力の向上や、コミュニケーション能力を高めるために、
今年度もこの2領域に関して、重点的に研究を進めていく。

さくらとにようい子ども

グローバル化に対応した子どもの育成

深い学び

「知識や技能を、思考力や判断力、表現力などを働かせて活用する」

主体的

「高い意欲・積極的活用」
「見通しや目的理解」

対話的

「コミュニケーション」
「目的や場面に応じた工夫」

言語活動の充実

◎発信力の向上のための工夫

- ・話す際のポイント(声の大きさ・表情・ジェスチャー・目線・速度)
- ・相手に対する反応(感想・同意・確認・質問・反復)
- ・情報の付加 ・目的, 場面, 状況の設定 ・相手意識
- ・スモールトーク ・デモンストレーション

◎指導と評価の一体化

- ・中間指導(Try to Challenge) ・CAN-DO リスト
- ・ループリック ・リフレクションシート ・パフォーマンス評価

◎ICT 機器の活用

- ・デジタル教科書 ・一人一台端末 ・電子黒板

環境整備

外国語学習を深めていくための掲示・音楽(全校・学年など)

○授業計画作成

- ・価値観
- ・児童観
- ・教材観

○職員間での授業観察・情報共有

○振り返り

3. 研究内容及び研究方法

①発信力の向上

(1) 話す際のポイント

○声の大きさ

相手のことを考え、伝えたいことがしっかりと相手に伝わるような声量で話す。

○表情

笑顔で友達と会話を交わすことを心がけさせる。また、自分の感情を表現する際には、「楽しい」「嬉しい」「悲しい」「寂しい」など、表情豊かに英会話に親しんでいく。

○ジェスチャー

相手に伝わりやすいように、場面に応じてジェスチャーを取り入れながら伝えていく。

○目線(アイコンタクト)

相手の目を見ながら英文を述べるようにする。自分の気持ちをきちんと相手に伝えられるようにしていく。

○適切なスピード

相手が理解しやすいような速度、ある程度スムーズな流れ等を意識していく。

(2) 相手に対しての反応 (reaction・response)

○感想 (Nice! / Great!)

自分の思いを述べたり、あいての意見をほめたりすることで会話をつなげていく。

○同意 (Me, too. / I like apple too.)

自分も同じ考えや思いをもっている際に使っていく。

○確認・聞き直し (Really? / OK? / Pardon?)

相手の意見を確認したり、聞き直したりする際に使っていく。

○あいづちをうつ (Right. / I see.)

相手が伝える内容に対し、あいづちをうって気持ちを表し、会話の流れを保つ。

○質問 (How about you? / Why?)

相手が伝えてくれた内容をより詳しく聞いたり、相手の考えを確認したりする際に使う。

○反復 (Oh, You like apple.)

相手が述べたことを繰り返して話すことにより, 確認したり, 会話をつないだりする。

○賛成 (OK! / That's a good idea.)

相手の考えに賛成する意思を表すさいに使用する。

○情報を付加

より相手に自分の考えを伝えるために, 情報を付加

「I want a pen.」 → 「I want a blue pen. I like blue.」

これらを工夫し, 相手に関する質問や, 自分の考えや気持ちなどを伝え合い, 会話を続けていく。

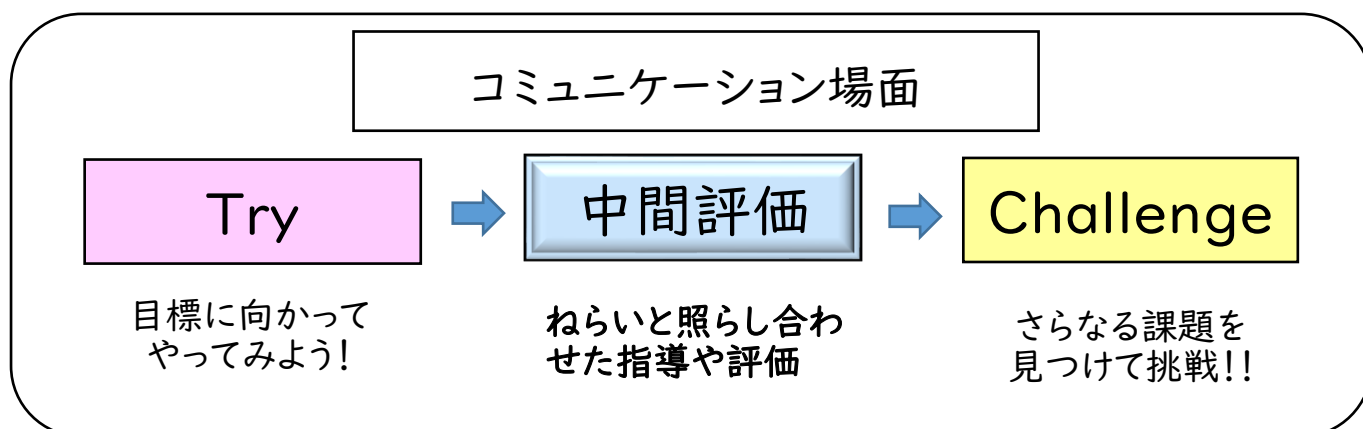
(3) 気持ちや状態の伝え合い (Feelings)

授業導入時のあいさつでは, 自分の感情や思いを, 気持ち豊かに述べていく。

「How are you?」「I'm ○○.」「Why?」

② 中間評価の工夫

中間評価とは, 主にコミュニケーション場面の途中に設定する評価場面。活動と活動の間に効果的な指導や評価を行い, 児童に気づかせたい見方・考え方を引き出したり共有したりすることで, 本時の目標達成にせまっていくことである。



合言葉は, 「トライ・トゥー (中) ・チャレンジ!」

<Try>

試しにやってみるといったニュアンス。過去にしていなかった新しい目標に向かってやってみるとい
うとき。Try は、何か新しいこと（目標・したいこと）があって、それをやってみる、挑戦するというとき
に使います。

<Challenge>

大きな努力を必要とする課題や目標。またそのために結果を出そうとするとき。Challenge には、
挑戦する対象は課題や問題、または挑戦する相手（人または自分）がいるということになります。

Try（ためす活動）

本時の目標に向かい、今の力でどれだけ伝えるかを試していく。



中間評価

本時のねらいにより迫るために、指導者がコミュニケーションの目的を再度確認したり、うまくい
ったことを取り上げて共有したりするなどしていく。児童の困り感に寄り添って、それを改善してい
く指導も考えられる。その際、指導者からポイントを伝えるだけではなく、児童同士の活動や、対
話からうまれる気づきなどから、ポイントを示していきたい。

- ・B評価からA評価にもっていける指導（C 評価から B 評価への指導）
- ・より良い表現を見て、それを自分事として捉え、次の活動へ生かす方法
- ・ICT 機器の効果的活用
- ・児童全体で発表について考える時間の確保



Challenge（挑戦する活動）

中間評価を受けていかす活動では児童が新たに得た表現を加えたり、伝える内容や言い方を
変えたりして、より自分の考えや気持ちを伝え合えるようにする。中間評価前に比べ、児童の発す
る言葉や内容の質を高めるなど、本時のねらいにより近付けることを意図して行う。

③評価と指導の一体化について

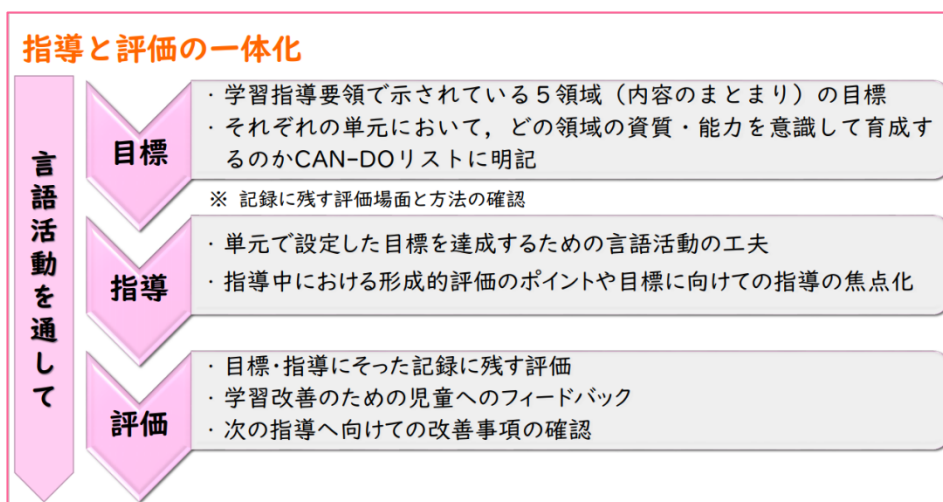
(1) 荏崎小学校版「CAN-DO リスト」の作成

現在は山梨県版CAN-DOリストに対応させ、授業を行っている。

→実践しながら、児童の実態に合わせたリストを作成していく必要がある。

・これまでの学習評価は、「学期末や学年末などの事後の評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。」

→そこで、指導と評価の一体化を図り、学習改善につなげていく。



★バックワードデザインの単元計画

①CAN-DOリスト ②単元の目標 ③単元の評価規準 ④指導と評価の計画 **授業** ⑤総括

(2) パフォーマンス評価（ルーブリックを用いて）

ルーブリック：評価基準表

授業中での指導者と児童のやり取りや、児童同士のやり取り、あるいは、児童の発表のようすを直接観察したり記録したりして評価する。児童もルーブリックを用いることにより、自己評価することで、自分の力を把握しすることができる。また、指導者のコメントも次の活動にいかすことができる。

Grade 6 Unit 6 「自分たちの町にあるもの、あったらいいものについて自分の考えや気持ちを伝え合おう」

パフォーマンス評価シート「やり取り」

6年()組()番 名前()

観点	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
ボイ ン ト	We have~. We don't have~. We can enjoy/see/eat/buy~. It's~.	Do you like~? What () do you like? Can you~? Why? Where? When? Who? I like/want~.	ジェスチャーを付けて伝える 相手が聞きやすいスピードで話す 相手に伝わる声で話す 相手の目を見て話す うなずきながら聞く
3	自分たちの町にあるもの、あったらいいものについて、誤りがない表現でやり取りしている。	自分たちの町にあるもの、あったらいいものについて、ALTに伝えるために詳しく質問したり、答えたりしている。	自分のことを相手に伝えるために、相手のことを十分考えて話したり、聞いたりして、伝え合おうとしている。
2	自分たちの町にあるもの、あったらいいものについて、誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度にやり取りしている。	自分たちの町にあるもの、あったらいいものについて、ALTに伝えるために質問したり、答えたりしている。	自分のことを相手に伝えるために、相手のことを考えて話したり、聞いたりして、伝え合おうとしている。
1	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

A・・・9点
B+・・・7～8点
B・・・6点
B-・・・4～5点
C・・・3点

総合評価

コメント

(3) 振り返りシート

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を自己評価するとともに、指導者からのコメントを受けることができる。学習に対しての意欲を向上させるとともに、次回の活動への糧とできるようなシートにしていこう。

Unit 6 This is my town. Reflection Sheet			
Grade	Class	Number	Name
(6)	()	()	()

自信をもってできた

4

自分でできた

3

友達や先生の助けがあればできた

2

まだむずかしい

1

Date	Today's Goal	Self-check	Date	Today's Goal	Self-check
	しぜつや建物の言い方を知ることができましたか。	4 3 2 1		自分たちの町にあるもの、あったらいいものについて自分の考えや気持ちを ALT に伝えることができましたか。	4 3 2 1
	☆しぜつや建物の言い方で知っているものはありましたか。また、もっと知りたいものはありましたか☆			☆相手にわかりやすく伝えるために、あなたが工夫したことはどんなことでしたか☆	
	どんな町がよいかを考え、伝え合うことができましたか。	4 3 2 1	Unit 6 の学習を通して、あなたができるようになったことや心にのこったことはどんなことですか。 (思ったことや考えたことを自由に書きましょう)		
	☆あなたの町にあるものやないもので、どんなしぜつや建物を英語で言ってみたいですか☆				
	自分たちの町にあるものやないものを伝え合うことができましたか。	4 3 2 1	Teacher's comment		
	☆あなたの町にあるものやないものを伝え合う中で、英語で言いたくても言えなかったことはありましたか☆				
	自分たちの町にあるもの、あったらいいものについて自分の考えや気持ちを伝え合うことができましたか。	4 3 2 1			
	☆あなたの町について伝え合う中で、友達のよかった考えや気持ちはどんなところでしたか☆				

※③に関わって

☆指導と評価の一体化を意識

- ・児童は、自分がどの程度の力が身についているか、課題は何かについて把握し、次回の活動の参考としていく。
 - ・教師は、児童の学習状況を把握し、指導方法を見直していく。
- 児童に、言語活動や3領域における力を身に付けさせていく。

記録によるものだけでなく、授業中の声かけや指導、評価も大切に、進んで実践していく。

④目的や場面, 状況の設定(単元全体や授業における)

- ・どんな目的で, どんな場面, 何のために会話するのか

例: 友達と会話「What sports do you like?」「I like ○○.」

目的『このクラスで一番人気のスポーツは何か?』を設定 → 友達と会話する必要性

- ・相手意識をしっかりとつ

例: 「葦崎市の良い所を○○小学校に伝えよう。」「ALT の先生に感謝の気持ちを伝えよう」

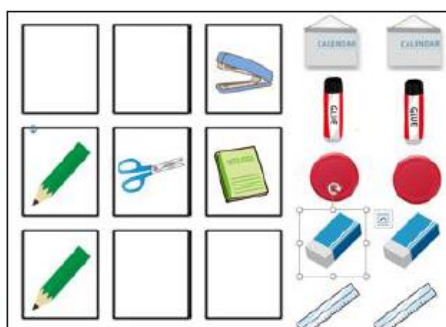
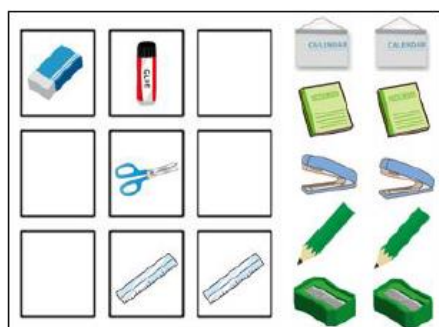
- ・スモールトークの利用

身近な話題で, 教師と児童, あるいは児童同士がやり取りする活動

→ 対話を続けるための基本的な表現の定着を図る。

⑤効果的な ICT 機器の活用

- ・単元で新しく学習する語句や表現をイラスト・文字とともに示す。
- ・タブレット端末の画面を見ながら, 語句や表現の発音をする。
- ・自分が話したいことに関する写真やイラストを使って資料を作成する。
- ・児童同士で録画した映像をもとにやり取りしたり, 改善点を共有したりする。
- ・提出されたデータを教師が確認し, 学習状況を把握する。 など



《児童のやりとりの例》

S2: Do you have an eraser?

S1: No, I don't.

S2: I see. Do you have a ruler?

S1: Yes, I do.

S2: How many?

S1: One ruler.

S2: OK. Thank you.

インフォメーションギャップによる対話

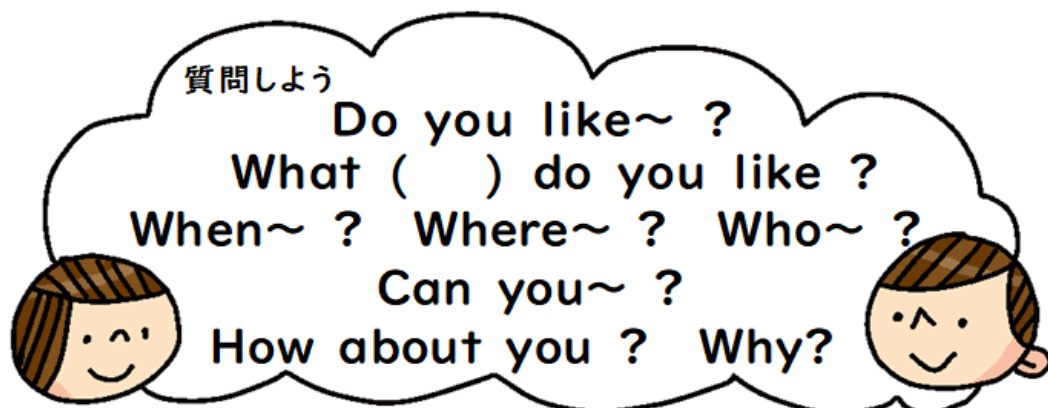
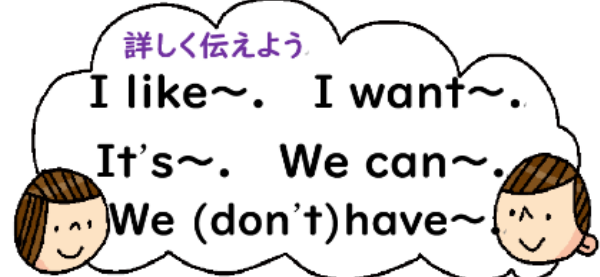
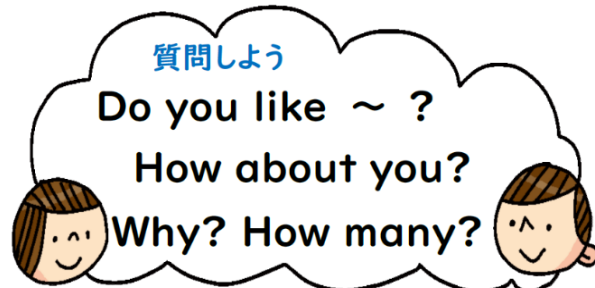
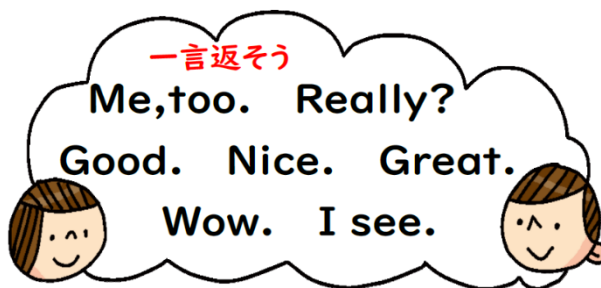
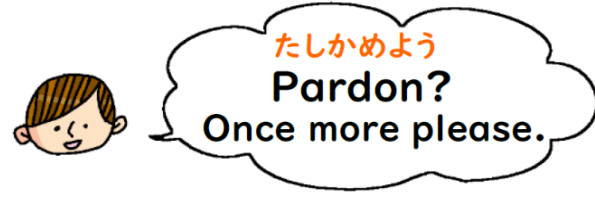
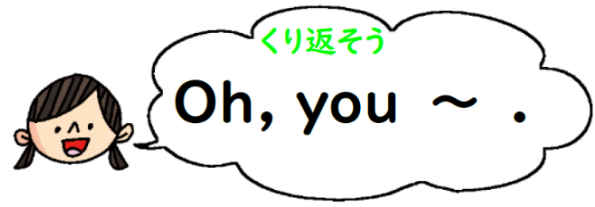
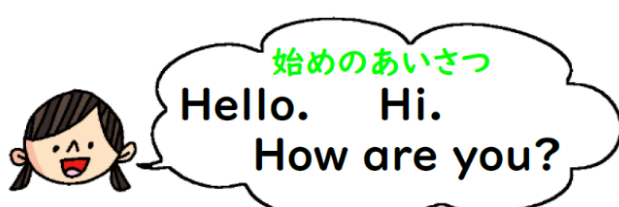


ロイロノート(学習支援アプリ)による文房具交流

⑥掲示の工夫

やり取りや発表に生かすことのできるような掲示(学年)の工夫

- ・英文の質問等を掲示→ 朝の会や帯の時間でスモールトークを実践
- ・マグネットで取り外せるようにし, 授業時にも活用していく。



⑦取組による児童の変容を把握

- ・児童アンケート(7月と12月)を実施し、取組による変容を把握することで、これからの指導に生かす。(2～6年)

校内研究アンケート(2・3・4年は⑤・⑦の質問は行わない。)

外国語の授業に関するアンケートです。当てはまるものにチェックしましょう。

(「そう思う」「どちらかというと思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」)

1. 友達と英語を使って会話をしているとき、「Nice!」や「Good!」など、自分の感想を、気持ちを込めて伝えることができていますか。
2. 友達と英語を使って会話をしていて、自分の意見が相手と同じ意見だったとき、「Me, too.」や「I like ○○ too.」のように、相手に思いを伝えることができていますか。
3. 友達と英語を使って会話をしたり、発表をしたりするとき、自分の考えをよりくわしく伝えるために、ジェスチャーをつけたり、相手の方を見たりしながら、伝えることができていますか。
4. 友達と英語を使って会話をしたり、発表をしたりするとき、相手に伝わるような音量・速度で話すことができていますか。
5. 友達と英語を使って会話をしたり、発表をしたりするとき、Yes や No だけではなく、理由や感想など、自分なりの情報を加えて話すことができていますか。
例:「I want a pen.」→「I want a blue pen. I like ○○.」
「Why?」「Do you like~?」「What ○○ do you like?」など
6. 友達と英語を使って会話をしたり、発表をしたりするとき、どんな場面で、何のために会話するのか理解しながら活動できていますか。
7. 「Reflection Sheet」や「パフォーマンス評価シート」の反省やコメントを見て、次の会話や発表に生かすことができていますか。

4. 研究計画について

	研 究 日	研究組織	研 究 内 容
職 員 会 議	4月 5日（月）	全体会	・昨年度の校内研究概要説明 ・昨年度の職員アンケートより ・今年度の研究について
①	4月 7日（水）	推進委員会	
第 1 回	4月18日（月）	全体会	・今年度の研究概要 （・研究主題、副主題・主題設定の理由・研究仮説・研究内容 ・検証方法・研究組織・研究計画） ・家庭学習の手引きと目標設定について
②	5月 2日（月）	推進委員会	
第 2 回	5月16日（月）	全体会	・今年度の研究内容について 具体的取組の確認 ・発信力向上について
③	5月23日（金）	推進委員会	
第 3 回	6月 6日（月）	学習会	・英語教育改善プラン推進事業について （指導主事招聘）
⑤	6月24日（金）	推進委員会	
第 4 回	7月11日（月）	全体会 ブロック研	・中間評価について ・発信力向上についての指導（ブロック） ・児童アンケートについて
第 5 回	7月27日（水）	全体会 ブロック研	・一人一実践について ・研究授業についての討議
第 6 回	8月 8日（月）	学習会	・特別支援教育学習会
⑥	8月29日（月）	推進委員会	
第 7 回	9月12日（月）	全体会	・研究授業 指導案検討（低・中・高） ・研究会のもち方について

⑦	9月26日（月）	推進委員会	
第8回	10月17日（月）	研究授業 研究会	研究授業（中学年）指導主事招聘 早川優子（県義務教育課指導主事） 白倉俊樹（中北教育事務所指導主事）
⑧	10月28日（月）	推進委員会	
第9回	11月15日（火）	研究授業 研究会	研究授業（高学年）指導主事招聘 田中武夫（山梨大学大学院教授） 早川優子（県義務教育課指導主事） 白倉俊樹（中北教育事務所指導主事）
第10回	11月30日（水）	研究授業 研究会	研究授業（低学年）指導主事招聘 早川優子（県義務教育課指導主事） 白倉俊樹（中北教育事務所指導主事）
⑩	1月12日（木）	推進委員会	
第11回	1月16日（月）	全体会	- 研究授業の検証について（低・中・高） - 研究に関する職員アンケート実施について - 年間指導計画について
第12回	2月13日（月）	全体会	- 研究に関する職員アンケート結果について - 研究紀要作成について
⑪	2月16日（水）	推進委員会	
第13回	2月27日（月）	全体会	- 研究のまとめ - 来年度の研究の方向性について